

9．生活：このような歴史を持ち、イスラム教の戒律が日常生活の隅々にまで染み込んだサウディアラビア人の生活について概略お話します。

1) 食物：僅かなオアシスや井戸水による灌漑で耕せる畑地は少ないので、アラブ特有のナツメヤシの実「デーツ」以外の農作物は殆ど近隣からの輸入に頼っていますが、高温の砂地でも収穫できるトマト・キュウリ・ナス・モロヘイア・ネギ等が常時入手し易い野菜で、これに羊や山羊のヨーグルトやチーズと共に、平たいレコード位の大きさのホブスと呼ばれるパン（インドではナンと言われています）を普段食べ、時々羊や鶏を屠って食べます。彼等にとってのご馳走は羊の丸蒸し焼きをサフランで着色したインディカ米と共に車座になって右手だけで食べる「カルーフ」で、遠来の客や子供の誕生・結婚などの時にハレの食事として必ず出てきます。余談ですがデーツは石油以外の数少ない輸出品です。

豚は食べる事は勿論サウディ国内に持ち込む事も禁じられています。牛はファーストフードのハンバーガーで子供達にはフライドチキンと並んで人気がありますが、魚は白身のハタ・アラ（アラブではハムール）やエビが最も好まれ、鮪・鯉の赤身の魚はヤバーニ・フィリピーノなど外国人が買うだけで、イカ・タコに至っては人の食うものでなく釣りの餌としか見ていません。果物も殆ど輸入に頼りブドウ・オレンジ・ザクロ・リンゴ等が多く出回っています。お菓子やケーキは蜂蜜で甘過ぎる位のものが好まれています。

2) 婚姻：結婚は契約であり予め離婚になった場合の慰謝料が決められるようです。結納金が高いので多くは同じ部族内で親同士が決めた相手と結婚するケースが多く、イスラム教では平等に扱えるならとの条件付で4人まで正妻を持つ事が許されていますが、財力と体力それに女性の希望から最近では複数妻を持つ人は少なくなっているようです。私の同僚だったサウディ人が消防署長に昇格した時に自分の息子と同じ位の年の奥さんを同じ故郷から貰い、土・月・水は始めの奥さんの家に日・火・木は道一つ隔てた若い奥さんの家に通う生活をしているとの事でした。イスラム教初期の頃は部族同士や異教徒との争いが絶えなく、子を抱えた未亡人が急増した為社会的救済策としてムハンマドが許したようです。遊牧民が土漠を移動しながら出産育児をする為の切実な必要から出来た規則とも言います。

3) 葬儀：敬虔なムスリムは死後、水や緑や蜜の溢れる天国で暮らせると言う教えが有る為、通常は白布で巻いた遺体を囲み三日間の喪に服し、指定された墓所の一画に土葬し目印に握り拳位の小石を置いた後は、特別な場合を除きお参りや法事をしないようです。同僚だったサウディ人は当方が法事の為帰国すると言ったら、ムスリムにはその習慣は無く毎朝出勤の途中車の中から道路脇の土漠の墓所に向かって「アサラームアレイコム貴方に神の平安の思ひ召しがありますように」とハンドルの握り言うだけだと、言っていました。余談ですがサウディアラビア王国の国旗は緑一色に剣とコラーンの言葉のデザインで、ムスリムの天国はさしずめ日本のような水と緑溢れる所を願望も込めて描いているようです。